

富士フイルムVETシステムズ広報誌「ベテビータ」

VETE VITA

動物愛を語る

この子たちの幸せを守るために
プロフィギュアスケーター 村上 佳菜子さん

特別描きおろし



まめきちまめこイラスト

USER'S VOICE

犬のがんをより早期に発見
健康寿命をのぼす新たな一手

会社の歩み

モノリスから30年、
富士フイルムグループになって9年

連載 病理診断の現場からーヘリコバクター感染ー

お知らせ

動物医療コラムのご紹介

この子たちの幸せを 守るために。

多忙な毎日を送る村上佳菜子さんを癒やすのは、ViViちゃんとChicoくん。保護犬だった2匹を迎え入ってから「この子たちを絶対に幸せにする」という思いで向き合ってきた。そんな村上さんに、2匹との出会いや健康管理について伺いました。

プロフィギュアスケーター、タレント
村上 佳菜子さん

2匹が健やかでいることがわたしの生きがいです

選手生活を支えてくれたチロルへの 感謝の気持ちから保護犬を引き取ることに

Q ViViちゃんとChicoくんは、保護犬なんですよ？
なぜ保護犬を引き取ろうと思ったのか、
どのように出会ったのか教えていただけますか？

村上さん 前飼っていたチロルは、わたしのスケート人生を支え続けてくれたワンちゃんだったんです。試合で良い結果を出さなくて家で悔しくて泣いているときは、必ず顔をペロペロなめて慰めてくれたり、ぎゅっと抱きしめてから試合に行くと優勝できたり。チロルが亡くなったのは、選手生活を卒業して、今の仕事安定

してきたときだったんです。まるで「もう大丈夫だね」って言っているみたいで。だから、ワンちゃんたちになにか恩返しができないかと思っていました。

そのタイミングで、当時出演していた『天才！志村どうぶつ園』という番組で宮古島の保護犬施設に行く機会があり、初めて保護犬と触れ合ったんです。とてもいい子もいたのですが、人馴れしていないため抱っこが難しかったり、一人で飼うことに不安があったりして、そのときは連れて帰るのを諦めました。でも、保護犬を迎えたいという気持ちはその後も諦められなくて。

スマホで調べて見つけたのが赤ちゃんのViViでした。もう、ひと目見た途端に「絶対この子に会いたい！」って、本当に運命のように心が惹かれました。会いに行ってもその気持は変わらなかったのですが、一人で飼うことや初めての犬種を飼うことに不安があったんです。そうしたらその施設の方が「一緒に育てていきましょう」ってくださったんです。その言葉に励まされてViViを連れて帰ることにしました。

Chicoは、わたしが留守のあいだにViViと一緒にいる子がいたらいいだろうと思って迎え入れることにした子です。同じ保護施設で5匹のワンちゃんを見せてもらって、ViViとも会わせて。ViViはどの子とも大丈夫だったのですが、わたしが決めかねていたら、一緒にいた友達に「今日この子連れて帰らなかったら、多分新しいワンちゃんを迎えることはないと思うよ」って言われて決心しました。あのときChicoを迎えることにして本当によかった、と思っています。

ViViちゃん



Chicoくん



この子たちがいるから頑張れる。 娘・息子のように思っています

Q 2匹とゆっくりできる日はどんなふうに過ごしていますか？

村上さん 家でゴロゴロしたり、散歩へ行ったり、一緒に旅行に行くこともあります。ViViは活動的で、飛んで落ちてくる落ち葉をピューッと狙って、ハンターみたいに飛んで行ってしまいそうになるんですよ。最初は「撫でるなら撫でていいよ」という感じで無関心だったのが、どんどんわたしに似てきたみたいでアクティブで感情豊かになりました。

Chicoは、ドッグランに行っても追いかけられると怒ったりしてほかの犬に慣れるのにちょっと時間がかかるんです。そろそろ帰ろうかなって頃になって、走り始めたりして(笑)。

Q ViViちゃん、Chicoくんと過ごす時間で、

村上さんがもらっているものも多そうですね。

村上さん そうなんです。前のワンちゃんはお母さんみたいな存在で、わたしを支えてくれていたのですが、この子たちは娘、息子みたいな感覚があります。なので、この子たちが幸せに過ごせることを一番に考えて過ごしています。例えばわたしが餓死してもこの子たちには最高のご飯をあげるというのがモチベーションになっていますね。



少しでもリスクを減らしたい。 健康管理の大切さを実感しています

Q 食事やおやつにこだわっているということは、健康管理にも気を付けているのでしょうか？

村上さん すっごい気を付けています！いまViViが5歳、Chicoが4歳ですが、小さい頃から定期的に健康診断を受けています。診断では、ViViの心臓に異常が見つかってしまいました。もともとキャバリアは心臓疾患になりやすい犬種なので、気を付けていたのですが防げませんでした。見つかったときは体が小さすぎて薬も負担になるので、食事とおやつを心臓に優しいものに変えることからスタートしました。あとは、毎日お散歩に行き適切な運動をしたり、マッサージしたりして、薬を飲まずに今の状態をキープできるようにしています。

2匹ともマッサージが大好きなんです。「マッサージするよ」って声を掛けると、パッと来てくれてマッサージしているとうっとりしています。

ViViは、ちょっとしたことで体調を崩しがちなので特に気をつけています。でもChicoはありがたいことにとっても健康です。病院の先生に「そういえばChicoくんは元気？」なんて言われるくらい病気知らずですね。

7月からNu.Q® Vet Cancer Test (ニューキューベットキャンサーテスト) という血液を用いたがん検査がスタートしました。細胞が壊れる際に放出されるヌクレオソームという物質を検出することで、身体のどこかにがんが隠れていないか調べることができる、がん検診の一環となる項目です。いつもの健康診断での採血で検査ができるのでワンちゃんの体への負担も少ないんです。

村上さん とってもいいですね！どこの病院でも受けられるんですか？

スタートしたばかりなので、全国で約800施設ほどしか導入されていないのですが、より多くの施設で導入されることを目指しています。

村上さん ぜひ大流行させて、多くの動物病院で受けられるようになってほしいです。ワンちゃんへの負担が少ないのも魅力です。歯垢を取るのに全身麻酔をかけなければいけなかったりしますが、リスクがあるので、いつも怖いと思っていました。パッとできる採血でがんのリスクを見つけられるのは、本当にありがたいです。

一匹一匹に向き合う 獣医さんたちの姿勢に感動しています

小さな命を守るために 全国へ先端の医療環境を広めたい

弊社では、小笠原諸島の希少動物を守るためにノネコの保護活動のサポートも行っています。「ワンヘルス」という人、動物、環境の健全性という課題に対して、関係者が解決に向けて取り組むことを指す言葉があるのですが、いま多くの獣医さんがこのような活動に取り組んでいます。わたしたち企業もサポートして、みんなが幸せになる世界を目指したいと考えています。

村上さん すばらしいですね！保護活動もみなさんボランティアで行っている方が多くて、本当に大変なんです。わたしもぜひ参加して、力になりたいと思います。

Q 最後に、獣医師や愛玩動物看護師の皆さんに応援メッセージをお願いします。

村上さん 前のチロルが亡くなる3ヶ月前に、一度心臓が止まってしまったんです。父がとっさにマッサージをしたら息を吹き返してくれて戻ってきてくれました。それから、毎日病院に通って点滴をしてもらってという生活を続けていましたが、獣医さんや看護師さんがチロルにきちんと向き合ってくださったんです。そして、今もこの子たちが体調が悪くなると不安になって病院へ行くことがあるのですが、不安な気持ちに寄り添いながらも、しっかりと説明もしてくださるので不安が解消されていくんですね。みなさん、1日に多くの動物を診ている



はずなのにそうして対応していただけることに、本当に感謝しています。

人間であれば眼科や歯科という専門病院がたくさんありますが、動物病院では一か所で全てを診ていることがほとんどですね。その分、獣医さんや看護師さんは大変だと思います。ペットの動物たちが昔より長生きになっているのは、そうやって頑張っている方々のおかげだと思います。

先程の「ワンヘルス」のように、わたしもただ獣医さんや看護師さんからもらえばかりではなく、地方のボランティアの方々にも動物病院の皆さんにも、動物たちにも力になれるような活動をしていければと感じました。一緒に活動ができたらいいですね。

profile

村上 佳菜子さん

愛知県出身。3歳からスケートを始め、ジュニア時代から多数の大会で優勝。2014年にはソチ五輪に出場。2017年に引退し、以降はプロフィギュアスケーターとしてアイスショーに出演しながら、バラエティ番組やニュース番組のスポーツコーナー、ドラマなど多方面で活躍。



\ Special illustration /

大人気ブロガーのまめきちまめこさんにイラストを描きおろしていただきました。
獣医療に関わる全ての方へ、感謝の気持ちがこもったあたたかく素敵なイラストです。



ぼくたちの命を、求めてくれてありがとう。🐾



まめきちまめこ



まめきちまめこ

1989年12月生まれ、愛知県名古屋市在住の自称ニートのブロガー。現在、ライブドアブログで、自身の家族との日常を描いたエッセイマンガ「まめきちまめこニートの日常」を掲載中。

犬のがんを より早期に発見 健康寿命をのばす 新たな一手

日進月歩の獣医療において、常に最新の情報・技術をアップデートするおだわら動物病院は、年間診療数約1万5,000件、手術は約400件を行う神奈川西部の中核病院だ。新たにリリースされた、犬のがんに対する血液受託検査サービス「Nu.Q® Vet Cancer Test」(ニューキューベットキャンサーテスト)をいち早く導入した杉浦院長に、そのメリットや使用感などについてお話を伺った。

おだわら動物病院 院長
杉浦 雄一先生

がんの早期発見を望むご家族さまに対して有効なアプローチ

あるとよいなと切望していた がんをターゲットとした血液検査

Q おだわら動物病院の特長は

杉浦先生 当院の経営理念は「人と動物に優しい医療」、そして「健康寿命をのばす」こと。診療を行う上で心がけているのは「ハイスタンダード」です。当院は二次診療施設ではなく地域のホームドクターである一次診療施設ではありますが、一步踏み込んだ高水準の医療まで、ご提案できることを目指しています。必要であれば各科専門医のご紹介や大学病院、高度医療施設と連携をとりながら、常に最良の診療が受けられる体制を整えています。

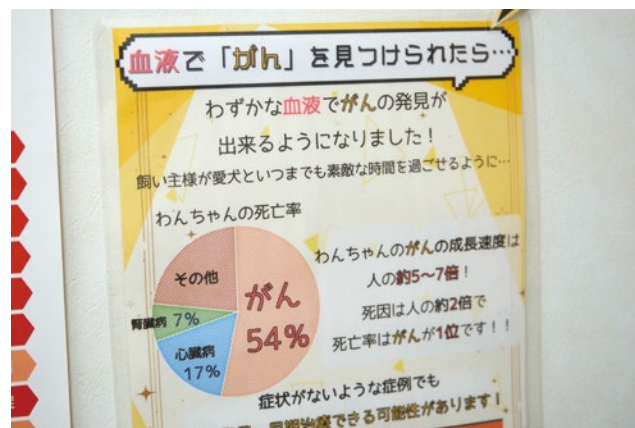
Q 犬のがん検査の重要性と現状の課題とは

杉浦先生 犬の死因のトップはがんです。積極的なオーナー様の場合は、定期的な画像診断を行うことで、病変が早く見つかることや、血液検査によるスクリーニングをきっかけに偶然がんが見つかることもあります。ほとんどの場合はそうではありません。

多くの場合は、元気がないなど様子の変化があって来院し、初めてそこから検査を行い発見に至る、という順番が多いです。健康寿命をのばすうえでも、やはり早期発見ができればそれに越したことはありません。何もなくても定期的に検査を行う習慣のある方はもちろんいらっしゃいますが、まだ少数派ですね。

Q Nu.Q® Vet Cancer Testを導入した理由は

杉浦先生 リリース案内が来たときは「やっと出たか!」という思いでした。人間に対しては、がんの早期発見・早期治療のため腫瘍マーカーが普及し進んでいますが、動物に対してはこれといった決め手がありませんでした。これまでも腫瘍マーカーはありましたが、感度・特異度が低く、取り入れられるものではありませんでした。現在、動物病院における腫瘍の検査で、利用できるものとなるとCRPや画像検査くらいなので、腫瘍に特化したNu.Q® Vet Cancer Testは新たな検査方法として有効だと思います。



独自の院内掲示でがん検診の重要性を啓発

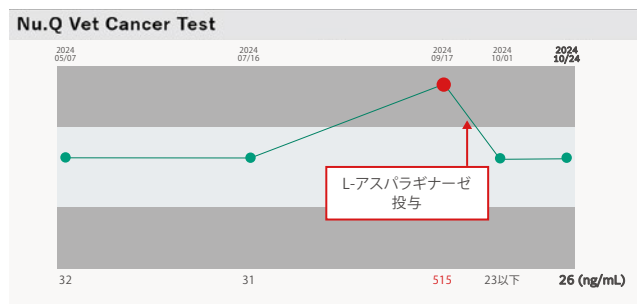
次の検査につなげるツール・ 化学療法の効果判定としても

Q 使用感について

杉浦先生 これまでの血液検査と同様に、採血だけでできるのは簡単でいいですね。2mLの採血量も悪くありません。この検査は採血後すぐに提出しなければいけないことや絶食が必要なことなど制約はありますが、あらかじめ「何日に来てください」「絶食でご来院ください」などとお伝えすると、オーナー様は必ず守ってくださるので検査もスムーズです。

腫瘍の存在が疑われるときにこの検査を行うと、数値が高ければ「次の検査を行いましょうか」と、ご提案にもつながれます。先日は移行上皮がんまたは前立腺がん疑いの症例で、Nu.Q® Vet Cancer Testを使うことで病理検査をする前に積極的に動けました。新生物を発見した際に高値だと、客観的なデータにより説得力が増すため、このような検査は良いですね。

さらにこの検査はリンパ腫、血管肉腫、組織球性肉腫などをメインのターゲットとしています。腫瘍ごとにエビデンスデータがあるので、オーナー様にきちんと説明できることもメリットです。あとは寛解後の経過観察や、抗がん剤の効果判定にも使えますね。今、高分化型多中心型リンパ腫の子を診ています。UW25プロトコール終了後にNu.Q® Vet Cancer Testを測定したところ低値だったのですが、経過観察中に膝下リンパ節の腫脹を認め測定してみると上昇していました。その後、L-アスパラギナーゼを投与したところ、膝下リンパ節の縮小と数値の低下を認めました(図1)。臨床症状と数値が一致したので、経過観察に優秀な使い方があったことがわかりました。



リンパ腫症例における測定値推移(図1)

「検査をやったよかった」と ご家族さまに安心を提供できる

Q 検査の精度(臨床との一致)について

杉浦先生 特にリンパ腫にはよく反応するという印象です。先ほどの症例のように、多中心型リンパ腫の子の寛解後の経過を診ていくとき、通常ならばリンパ節をサイズ測定やエコー検査で確認しますが、場所によっては測りにくかったり、大きさの判定が数ミリ単位で微妙なときがあります。それを客観的なデータの一つとして採血で出すことができる点がメリットですね。特に先ほどの症例のように、抗がん剤の効果判定と予後管理においては、今後非常に有力な検査になると思います。



Q ご家族さまの満足度は

杉浦先生 当院ではNu.Q® Vet Cancer Testが利用できるようになった当初から、オーナー様にご紹介すると「やりたい」という方はいらっしゃると思います。やはり、がんは死因のトップなのでオーナー様にとって、がんの疑いがある場合は、不安でいっぱいになります。健康でも高齢であるために、がんの心配がある場合、この検査で調べた結果、数値が低いとほんとに安心すると思います。多くのオーナー様にとっては「検査をやったよかった」という、満足度につながっていると思います。

Nu.Q® Vet Cancer Testを 健診パックに取り入れたい

Q 今後、富士フィルムグループに期待されていることは

杉浦先生 新たな検査項目もどんどん増やして下さっていて、価格も手ごろ。富士フィルムさんなら、ほかにはないような検査項目も揃えていらっしゃるの、今後も期待しています。特に、腫瘍関連検査の拡充には期待していますよ。

Nu.Q® Vet Cancer Testの価格も腫瘍関連の検査としては良心的だと思います。ただ、今のところ当院では「腫瘍があるのかを知りたいからやる」という、一歩踏み込んだ健康診断がしたい方にお使いいただいています。

私の理想はNu.Q® Vet Cancer Testをもっと浸透させて、健診パックに組み込むことです。腫瘍の早期発見につながるができるかもしれないので、いずれは実現したいですね。定期的な血液検査と画像検査、そしてこの検査を行うことで、オーナー様に提供する健康情報、がん予防のための検査を広げることができます。7歳を超えたら全ての子でこの検査はやってみてよいと思います。

Q 今後の病院経営で目指したいことは

杉浦先生 より早期発見・早期治療につながる検査は、オーナー様や動物のために、これからも積極的に取り入れていきたいですね。新しいことには、どんどんチャレンジしていこうと思っています。

おだわら動物病院(神奈川県小田原市)導入サービス・システム



- 犬のがんに対する血液検査「Nu.Q® Vet Cancer Test」
- 動物用X線画像診断システム「FUJIFILM DR CALNEO Smart V」
- 動物用X線画像処理ユニット「V Station T」

モノリスから30年、 富士フイルムグループになって9年



富士フイルムグループパースの社内公式ポーズで記念撮影をする先進検査センターのメンバー

富士フイルムVETシステムズはこのたび創立30周年を迎えることとなりました。

東京都調布市で従業員5名からはじまった「株式会社モノリス」。現在は本社を東京都三鷹市に移し、総勢259名の従業員※が全国の拠点にて、受託検査サービスや医療機器・システムの提供を通じて、動物の健康に貢献しています。今回は、社内では活躍する先進検査センターと本社メンバーに業務内容や仕事のやりがいについてインタビューしました。

※2024年4月時点

1995年2月21日
株式会社 モノリス
設立

ブランチラボ
開設

先進検査センター
設立

2025年2月
富士フイルム
VETシステムズ株式会社
30周年

1995

2003

2010

2016

2017

2019

2025

健康診断検査
受託スタート

2016年8月
富士フイルム
モノリス株式会社

2019年7月
富士フイルム
VETシステムズ株式会社

動物医療業界では国内最大級

富士フイルムVETシステムズ先進検査センターのご紹介

東京都国分寺市にある国内最大級の小動物臨床検査センター「先進検査センター」では、動物病院などに設置されている装置では対応できない検査も行うことができる、最新の臨床検査設備を完備。高い測定技術と経験豊富な検査スタッフにより、病理・細胞診、生化学、免疫学、内分泌、細菌検査など幅広い検査を実施します。

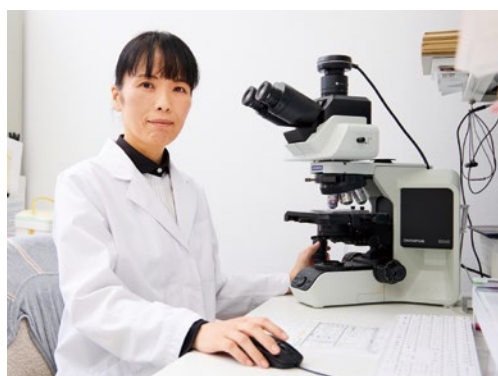
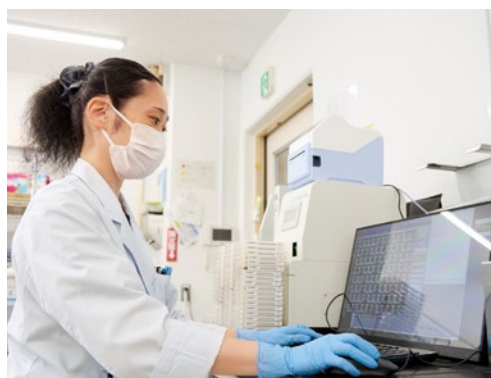
「先進検査センター」では今後、当社が培った獣医師の皆様とのネットワークを生かし、動物病院・クリニックから幅広くご要望やご意見を集め、新たな検査項目の探索・開発を行うなど、より臨床に役立つ検体検査の提供を目指していきます。

細菌検査ラボ 臨床検査技師 中村 友美

私は主に細菌検査を担当しています。

当時は、簡易法であるクイック薬剤感受性が主流でしたが、2022年10月よりCLSI準拠で、細菌培養同定をリニューアルしました。質量分析機の導入により1日で細菌の同定が完了し、感受性試験はMICを導入することで、検査精度と迅速な報告が可能になりました。

治療に苦慮する病院様へ細菌培養同定をお勧めし、感受性ありの抗菌薬が見つかった際は「よかった!」と嬉しくなります。



形態学検査ラボ 診断医(病理組織) 二瓶 和美

形態学検査では、細胞や組織の形態の変化を観察して診断を行います。そのためには標本の品質が非常に重要です。より良い診断を実現するためには、高品質な標本が欠かせません。私たちのラボでは、標本の品質にこだわり、きれいな標本を鏡検することで小さな病変も見逃さないよう努めています。さらに、若い診断医の教育にも力を入れており、ベテラン診断医は学会やセミナーなどで学術情報を発信し、日々診断力の向上に努めています。

私たち診断医が
サポートいたします。



形態学診断医
左から岡野 明弥、鄭 明奈、岸本 拓也、二瓶 和美、野上 英、原田 知享、島田 優一

新規事業推進部 学術担当獣医師 坂本 芽以

外注検査の学術業務を担当しており、臨床検査の先生方には主に検査に関するお問い合わせ対応でお世話になることが多いかと存じます。その他の業務としては、新しい検査項目の市場導入や学術情報の発信を行っています。最近では、犬のがんに対する血液検査「Nu.Q® Vet Cancer Test」を担当しました。この分野の検査はまだ発展途上ですが、メリットとデメリットを正確にお伝えし、ご活用いただけるよう尽力します。院内セミナーも承っておりますので、ご相談ください！



院内セミナーの様子



日獣大 藤田教授(左)と

新規事業推進部 学術担当獣医師 須藤 大輔

現在X線の担当をしております。
X線画像を読影するには常に目を鍛えなければということで、日本獣医生命科学大学(日獣大) 獣医放射線学教室 藤田教授のもと、研修生として勉強を続けています。
大学で学んだことは少しでも皆様のお役に立てるように還元していきたいと思います。

営業推進本部 超音波画像診断装置推進グループ 冨永 芳充

先生方や協力会社の方々へ「エコーの製品紹介」や「エコー活用」の場をいただくとセミナーの企画運営」に注力しています。技術革新が早い本分野で、エコーの魅力をお伝えし獣医療に貢献するため、先生方にご協力をいただき企画を進めることにやりがいを感じています。お客さまに信頼される存在であり続けるための重要な取り組みと考えています。ニーズを把握し形にする難しさはありますが、今後も最新技術をご提供し、その価値を丁寧にお伝えしてまいります。



セミナー撮影の様子



富士フイルムグループパースの社内公式ポーズで記念撮影をする学術担当獣医師
左より須藤 大輔、塩住 智紗子、坂本 芽以、安平 英由

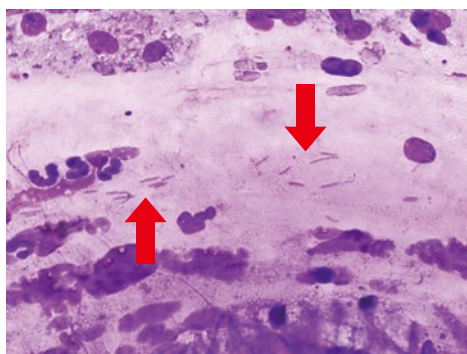
社内診断医の

あれ!?!この症例

— ヘリコバクター感染 —

経 過

猫、雑種、7歳、去勢雄。嘔吐を主訴に来院、異物誤食の可能性あり。胃の内視鏡生検を行い、生検組織のスタンプ標本を作製したところ、矢印のような病原体が見られた。



富士フイルムVETシステムズ(株)
形態学診断医 原田知享

診 断

Helicobacter spp. 感染

胃の粘液成分を背景にらせん状の形態を示す細菌が観察され、*Helicobacter*属菌と一致する所見です(赤矢印)。犬や猫では、健常個体でも高率にヘリコバクターに感染していることが分かっています。

犬や猫に感染する*Helicobacter*属菌は*H. felis*、*H. heilmannii*、*H. bizzozeronii*など多種が知られています。これらは人に見られる*H. pylori*(ピロリ菌)とは形態も異なり、より長く、らせんが多く見られる特徴があります。

人のピロリ菌は胃炎やMALTリンパ腫、胃がんの原因として知られていますが、犬や猫のヘリコバクター感染と消化器疾患との関連に関して、はっきりとしたことは分かっていません。そのため、胃炎徴候のある症例においてヘリコバクター属菌の除菌が必要かは議論がありますが、除菌の治療効果を認める報告もあり、今後のさらなる研究が待たれます。

富士フイルムグループパーパス

地球上の笑顔の回数を増やしていく。

わたしたちは、多様な「人・知恵・技術」の融合と独創的な発想のもと、
様々なステークホルダーと共にイノベーションを生み出し、世界をひとつずつ変えていきます。

FUJIFILM
Value from Innovation

動物医療コラム

一般的な獣医療に関する情報、旬のトピックを症例や経営など分野に分けて随時更新中！
獣医療従事者の皆さまに役立つ情報をご紹介します。

新着記事

【病理・細胞診 診断医コラム】

第2回：
犬の口腔の悪性黒色腫

症例



動物病院を

新規開業するときの手順は？
開業までに必要な準備を解説

経営



スタッフの定着率を
向上するためのポイント

経営



Pick UP

わかっていそうで
わかっていない、
少しだけわかる蛋白分画

臨床

各論

血清蛋白電気泳動

検査の原理

実施の検討



【超音波診断コラム】

超音波画像のアーチファクトを
楽しく学ぼう

超音波

エコー

アーチファクト

原理



【診断推論について①】

診断推論をマスターする
～診断推論とは？～

診断推論

直観型診断

分析型診断



いつも広報誌をお読みいただき
ありがとうございます
編集部一同

FUJIFILM

富士フイルムVETシステムズ株式会社
〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3-35-1 ネオ・シティ三鷹12F
Tel: 0422-26-7129

Webからの
お問い合わせは
こちら ▶

